

# 所報

No.133  
令和3年2月18日

富山県総合教育センター

富山市高田525

E-mail:center@tym.ed.jp(代表)  
URL:http://center.tym.ed.jp/

## 目次

- 巻頭言 ..... 1
- 各部研修の一コマ ..... 1
- 調査研究事業の概要 ..... 2～3
- センター事業より ..... 3～4
- 随想 ..... 5
- 連載「知って得02」 ..... 6

## 巻頭言

### 「あたりまえにありがとう」を感じるとき

副所長 長越 弘樹



「夜間に1人で外出し、道に迷っていた認知症の80代の女性を交番まで送り届けたとして、福岡県警春日署は、久留米工業高専3年の篠塚昌仁さんに感謝状を贈った。」(朝日新聞DIGITAL 12月24日配信)この高校生

は取材に対し、「中学時代から『サッカー部では、あたりまえのことをあたりまえにするように』と言われ続けてきた。今回も、あたりまえのことをただけです。」とコメントしている。言うは易く行うは難し。簡単にできるようだが、実際に声を掛け対応するには勇気があることだ。

先日娘から、このような話を聞く機会があった。「駅前の歩道にうずくまったまま動かない老人がいたので、連絡先を聞き、家族に連絡をとり、迎えに来てもらうことにした。寒い冬の夜、一人にしておくこともできず、タクシー運転手にしばらく車内で面倒をみてくれないかと頼んだ。無理だと断られ、道行く人に頼んで、一緒に老人を近くの飲食店の前まで運んだ。外は雪も降ってきて寒いので、温かいお茶を買ってきて飲んでもらった。関節が痛むのか座ることも辛そうなので、店の人に声を

かけ、中まで運んでもらい、2つの椅子に横たわるようにしてもらった。家の人に店の名前と場所を説明し、時間も遅かったので、後は店の人に頼んで電車で帰宅した。」いろいろな人の力を借りることができて、どうか老人を支えることができた。

あたりまえかも知れないけれど、有難いこと。「あたりまえ」の意味を調べてみると、「ありがとうの反対語」という法話にたどりついた。法話の中に以下のくだりがある。「『ありがとう』は漢字で書くと「有難う」「有難し」という意味だ。あることが難しい。まれである。めったにない事にめぐりあう。すなわち、奇跡ということだ。奇跡の反対は、「当然」とか「当たり前」。我々は毎日起こる出来事を、当たり前だと思って過ごしている・・・。」そんな当たりの前の毎日の中で、どのようなあたりまえができるのか、私たちは常に問われているのかもしれない。

失った日常を見つめ直した時、初めて気づくありがたいこと。福島県飯舘村では、東日本大震災の発災日である3月11日を「あたりまえをありがたいと思う日」としてメッセージを発信している。親として、教師として、また一人の人として、「あたりまえにありがとう」を感じられる心を持ち続けていきたい。

## 各部研修の一コマ

### 教育研修部



新規採用教職員研修会  
(幼稚園教諭・保育教諭)  
講義と実習「幼児の事故予防と応急手当」

### 科学情報部



若手教員研修(初任者研修会)  
(小学校教諭)  
「授業におけるICT活用」

### 教育相談部



第4回生徒指導セミナー  
講義  
「小児・思春期に見られる病気の特徴」

# 令和2年度 調査研究事業の概要



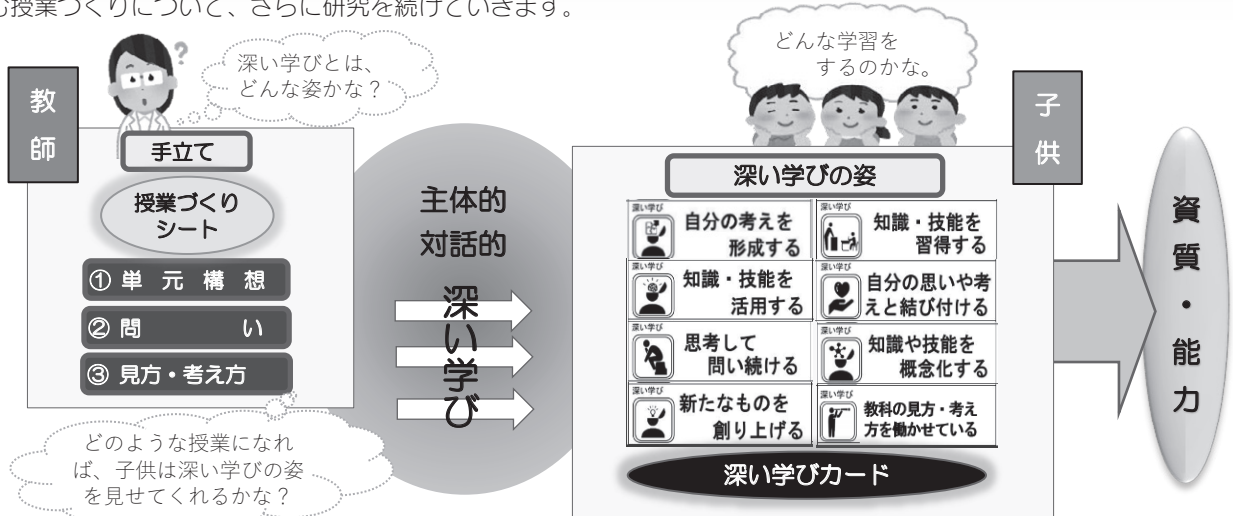
教育研修部

## 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する調査研究 — 深い学びにつながる授業づくり —

教育研修部では、『深い学びの姿』がイメージしにくいという現場の先生の声を受け、子供の『深い学びの姿』を視点に、授業づくりについて考えました。深い学びとは、どのような姿なのでしょう。いつ、どんなときに生まれるのでしょうか。

1年次は、2校の研究協力校で、理科と国語科の授業観察を行いました。単元を通して授業を参観したことで、『深い学びの姿』がより具体的になり、単元の様々な場面で生まれることが分かりました。また、前の単元で見えてきた課題を踏まえて次の実践に取り組んだことで、教師の手立てについてより深くとらえることができました。そこから、授業の中で本気で取り組む子供の『深い学びの姿』と、その姿が生まれる際には、「単元構想」「問い」「見方・考え方」の3つの視点が関わっていることが見えてきました。

本研究では、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせた授業や子供の学びを支える「単元構想」や「問い」の在り方について、子供の発言・記述等を基にまとめました。次年度は子供が自らの学びを自覚し、資質・能力を育む授業づくりについて、さらに研究を続けていきます。



科学情報部

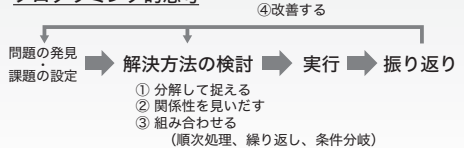
## 小学校における情報活用能力の育成に関する調査研究 — プログラミング教育を中心として —

小学校プログラミング教育が全面実施となり、GIGAスクール構想によるICT環境の整備も進んでいます。その中で、プログラミング教育を中心とした情報活用能力の育成に向けた授業実践への一助となることを目指し、調査研究を進めています。

本調査研究では、「プログラミング的思考」を「問題解決の過程におけるプログラミングの考え方に基づいた論理的思考」として捉えるとともに、問題解決の過程において、「分解」「関係性」「組合せ」「改善」といったことを論理的に考える力として具体化しました。

さらに、プログラミング教育の授業実践のポイントを明らかにし、それを反映させて、学習指導要領に例示されている2つの単元（5年算数科「正多角形」と6年理科「電気の利用」）における授業パッケージを作成しました。授業パッケージは、基本的なICT環境が整っていればどなたでも実践できるように考慮してあります。ぜひ、ご活用ください。

### プログラミング的思考



### 6年理科「電気の利用」における授業パッケージ

①ねらい

- センサーを使って電気を効率よく利用している道具があることを理解する。(理科)
- センサーを用いて通電を制御するためのプログラムについて、より妥当な考えをつくりだすことができる。(プログラミング教育)

②展開

学習活動と児童の思考の流れ(配時)	指導上の留意点(◆評価) ○プログラミング教育の視点
1 身の回りで電気が効率よく利用されているものやその仕組みについて話し合う。(5分) ・トイレに自動で明かりがついたり消えたりする照明があるよ。 ・センサーが利用されているものがあるね。プログラミングふれてるよね。	・前時に作成した物や自動で点灯・消灯する照明等を使い、センサーの有無による反応の違いに気付かせる。 ・電気の効率的な利用のためにセンサーが使われていることやその仕組みを確認する。
電気を効率よく使うために、プログラミングでセンサーを制ぎしよう。	
2 センサーを使って電気を制御するためにどのような命令が必要か考える。(10分) ・暗くなったときに点灯させる命令が必要だよ。 ・明るくなったときに消える命令も必要だね。	・使用する教材に応じたセンサーを使用する。(本指導案では明るさセンサーを使用する。ワークシートの図を用いて手順を確認する。 ・使用する命令(ブロック)を指定し、それぞれの意味について確認する。 ・「分解」「条件」「くり返し」のキーワードを使って、プログラミング的な考え方を確認する。

指導案

プログラミング教材

提示教材

♡ 教育相談部

## 児童生徒の自己適応感を促す心理教育プログラムに関する調査研究(2年次)

— あるがままの自分を感じる学習プログラムの開発 —

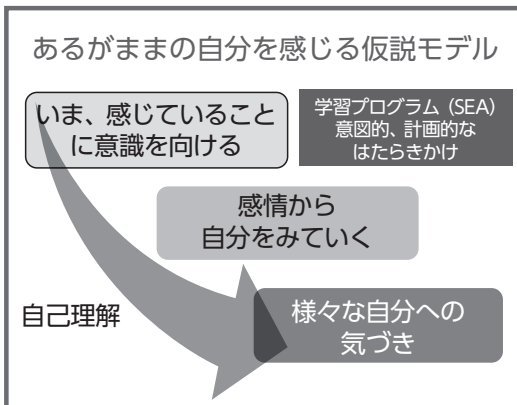
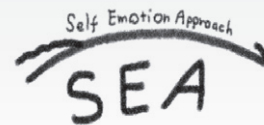
教育相談部では、多様化、複雑化した社会の環境に適応しようと、「~でなければならない」などの考え方や捉え方に過度に意識が向き、なかなか自分をつかみきれないという児童生徒の状況がある、と考えています。

そこで、自分の感情から自己を理解していく学習プログラムとして「セルフ・エモーション・アプローチ」(以下、SEA)を開発しました。<いま、ここにある自分>が感じていることに意識を向け、感情から自分をみていくことで、自分なりの自分に気づいていきます。あるがままの自分を感じることで、自己理解が促される仕組みです。

【からだ】の様子、【こころ】の動き、大切にしたい【かんがえ】を感情へ意識を向けるための手がかりとした短時間(5分程度)で行える活動(ワーク)を開発し、学校現場で使いやすいように、活用の仕方やワークのシナリオからなる「SEAワーク集(25ワーク)」を作成しました。

研究協力校での実践から、様々な自分に気づくことで、相互作用的に児童生徒と教師のそれぞれの自己理解が促されることが明らかになってきました。また、授業等に取り入れることで、様々な感じる他者の存在にも気づき、児童生徒の他者理解や教師の児童生徒理解が深まり、関係性にもよい影響を与えることが分かってきました。

SEAは、自分の感情から自己理解を促す育成プログラムとして学校支援訪問研修等を通して学校現場への提供を予定しています。



センター事業より

## 外国人児童生徒教育実践講座

(主管 教育研修部)

外国人児童生徒に対する日本語指導・教科指導、適応指導等についての指導力向上を図るため、今年度より講座を1回増やし、講師として外国人児童生徒等アドバイザーをお招きして研修を行いました。受講対象者は、国公立、私立、全ての校種の教員及び外国人支援員・外国人相談員です。

第2回講座では、「日本語指導の現状」「日本語と教科の統合学習(JSLカリキュラム)」「特別の教育課程」等の理論だけでなく、講師の近田先生の実践例も交えて分かりやすく教えていただきました。

日 程	内 容
第1回 (6月16日(火))	○授業参観「外国人児童生徒への日本語指導、教科指導の実践」→中止 ○情報交換・協議「各学校での外国人児童生徒への指導の工夫」→第3回へ
第2回 (7月27日(月) → 延期) 12月1日(火)	文部科学省 外国人児童生徒等アドバイザー派遣事業 ○講義・演習「日本語指導について」→リモートでの講話に変更 講話「日本語指導が必要な児童生徒への支援」 講師 目白大学 専任講師 近田 由紀子 氏
第3回 (8月26日(水) → 延期) 2月2日(火)	○報告「外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者研修」 ○協議「外国人児童生徒・保護者への対応」

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日程や内容を変更しました。

### 第2回講座 受講者の声

- ・JSLカリキュラムの考え方は、特別支援教育の考え方と変わらない印象を受けた。国籍にとらわれず、一人一人の児童に合わせた内容を考えていきたい。(特別支援学校教諭)
- ・授業実践例を具体的に聞けたことが大変参考になった。まずは、対話を大事にし、日本語教室に来ることが楽しいと思ってもらえるように支援していきたいと強く思った。(小学校教諭)
- ・中退者や非正規勤務者が多いという状況を知り、改めて目の前の生徒たちへの指導の責任の重さを痛感し、精進しなければならないと思った。(中学校教諭)



第2回 近田先生によるリモートでの講話



科学情報部では、学校では実施しにくい観察・実験を行うことで、科学への理解をより深めることを目的とした理科に関する生徒実習を行っています。対象は、高等学校の探究科学科、普通科自然科学コース、看護科の生徒です。

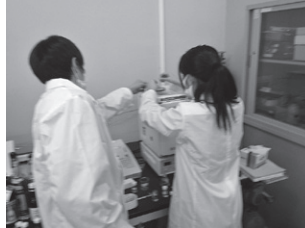
今年度は、新型コロナウイルス感染症による規制等の緩和や学校からの要望で、7月に行う予定だった実習を、12月に4校実施しました。

実習は物理・化学・生物・地学の4分野に分かれて行い、看護科は全ての分野、探究科学科および普通科は2つの分野を選択します。感染症予防のため、人数制限や実習日を複数設けるなどの対策を行い、延べ205名の生徒が実習を受けました。どの分野においても、生徒は高い興味・関心をもって積極的に実習に取り組んでいました。事後アンケートでは「今後の課題研究にこの経験を活かしたい」「実験を通して楽しく学ぶことができた」「もっと実験をしたい」という声が聞かれました。

今後も学校の要望や生徒の実状に合わせた形で実習計画を改善し、観察・実験の内容を充実させて有意義な学びを得られる実習を行っていききたいと思います。



CD・DVDを使った  
可視光波長測定 (物理)



食品中の酸化防止剤の定量  
(化学)



ウンガエルの解剖 (生物)



微化石の取り出し (地学)

昨年度までの文部科学省委託「問題を抱える子ども等の自立支援事業」を、今年度より、富山県事業「不登校児童生徒に対する支援推進事業」に再編しました。

不登校児童生徒の社会的自立のためには、児童生徒の興味・関心や能力に応じて、よりきめ細かい支援体制が必要と考え、「関係機関間の連絡体制の整備」「学校以外の場における多様な教育機会の確保に向けた支援」の2つを課題として活動を展開しています。地域・広域訪問指導員による家庭訪問指導や適応指導教室訪問、体験交流活動、家族のためのセミナー、フリースクール等を交えての研修会等を実施しています。

今年度実施した取組の中からいくつか紹介します。

### 関係機関間の連絡体制の整備

#### ◆第2回適応指導教室等担当者研修会 (令和3年1月15日)

適応指導教室指導員やフリースクール等民間の支援団体を対象に、不登校児童生徒の理解、支援の充実に向けた研修会を行いました。はあとびあ21では、不登校児童生徒の学びの充実を目指し、公と民の連携、保護者、子供と学校をつなぐ取組の実践を行っておられることを教えていただきました。



演 題：「不登校児童生徒への  
民間施設の考え方と対応」  
講 師：NPO法人はあとびあ21  
事務局長 高和 正純 氏

### 学校以外の場における 多様な教育機会の確保に向けた支援

#### ◆家族のためのセミナー (令和2年11月22日)

保護者や家族等、児童生徒に関わる人を対象に、臨床経験(学校臨床、教育臨床)豊富な専門家の講義や質疑応答の場を設け、家族の悩みを軽減したり、関わり方のヒントを得たりしました。

演 題：「不登校の子どものこころと親のこころ」  
講 師：奈良女子大学 教授 伊藤 美奈子 氏  
参加者：47名

#### ◆体験交流活動「おもしろ科学実験」(令和2年12月2日)

富山県総合教育センターのリソースを生かし、科学情報部の協力を得て、おもしろ科学実験を行いました。児童生徒は、興味・関心のある実験や科学工作をそれぞれ選択し、自分のペースでじっくり取り組んでいました。



「ウキ浮き」風船カー



「ミクロの世界を  
のぞいてみよう」



「進め!ぼんぼん蒸気船」

## 随想1

# 「自己肯定感」について

学力向上アドバイザー 吉倉 哲夫

引きこもりや早期離職等の問題について、その原因の一つに「自己肯定感の低さがある」という話を聞くことがあります。この「自己肯定感」に関する話を2つ紹介します。

先に目にした話は、「自己肯定感がダダ下がる 絶対やってはいけない行動3つ」と「自己肯定感がダダ下がったときに効く、自分への5つの質問」というものです。

### 「絶対やってはいけない行動3つ」

- ① 「ないものねだり」をすること
- ② 謙遜しすぎる
- ③ 姿勢が悪い

### 「自分への5つの質問」

- ① 自分の価値基準は何か
- ② ポジティブな面に目を向けているか
- ③ 本当にしたいことは何か
- ④ 絶対したくないことは何か
- ⑤ わがまを出せているか？

確かにそうだなと思っていたところ、数日後に「えっ？」と思うタイトルを目にしました。それは、「じつは『自己肯定感』を高めようとしてはいけない」というものです。タイトルだけを見たときは、逆のことを言っているのかと思いました。

しかし、話の内容は、無理に自己肯定感を上げようとするのではなく、自分を落ち込ますような考えや囚われ（メンタルノイズ）を少しでも除いていくことが大切なのだというものでした。基本的に、同じことを言っているのだと捉えました。

ただ、この話の中で、心に刺さる部分がありましたので、紹介します。

そもそも自己肯定感ってなんなのでしょうか？ 私は昨今の自己肯定感ブームで、ここが誤解されやすくなっているのではないかと少し心配しています。自己肯定感とは「自分はありのままがいい、生きているだけで価値がある、という感覚」のことです。

自信があるとか、自尊心が高いとか、ポジティブだとかいったことは実は関係ありません。（中略）もちろん前向きなことはいいことです。でも「さあ前向きに！」「うつむいていたらダメダメ！」なんて言われたら、しんどくないですか？ これではまるでポジティブの強要、ポジティブハラスメントです。

## 随想2

# この世で一番汚いもの

教育相談部長 中川 邦章

「この世で一番汚いものっちゃん、何やと思う？」

教員生活3、4年目の時、先輩教師から問いかけられた言葉です。（う～ん、何やろ？ハエやゴキブリかな？便器やウンチかな？）と、考えました。続けて先輩からヒントが出されました。「それは、人間の口から出るものやよ。」（え～っ？じゃあ、ツバかな？ゲロかな？）と考え直したものの、答えられずにいる私に「それは、人の口から発せられる“言葉”やちゃ。」と教えていただきました。

悪意を込めて発する、相手を傷つける言葉。人を貶して、自分の体面を保つための言葉。このような言葉が『この世で一番汚いもの』。かく言う私ですが約30年前、母と喧嘩して、思わず汚い言葉を放ってしまったことがあります。翌日、父から「母さん泣いとったぞ。少し言い過ぎやったぞ。」と諫められました。それから1年後、母は突然倒れ、帰らぬ人になってしまいました。きちんと言葉で謝ることができないままの別れとなり、後悔の念に堪えません。

一方で、使い方によって言葉は人を元気づけ、生きるエネルギーを相手に与えることができるものにもなります。これまで出会った生徒たちから、元気が出る言葉をいくつもかけてもらいました。「先生は私の一番の理解者」、「先生とやり取りした生活ノートは宝物」、「先生の授業は愛があった」など。仕事等で行き詰まった時はそれらの言葉を思い出し、励まされ、至らぬ教員でしたが辞めずに続けてこられたと感謝しています。

今の私であれば、冒頭の問いに対して「この世で一番汚いものは人の口から出る“言葉”とも言えるが、言葉で人を元気づけることもできる。要は使う人の心次第」と答えられます。私たち教員はつい上から目線で子供たちに接しがちで、日々何気なく発している言葉が子供たちを傷つけていることも少なくないのではないかと思います。子供たちを元気づける言葉がけを肝に銘じておきたいものです。



## QRコードは、日本製

科学情報部 主任研究主事 寺崎 清光

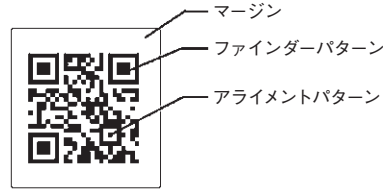
QRコードを見たことがありますか？携帯電話のカメラで認識させると、あっという間に指定されたwebページにアクセスすることができる四角いモザイク模様のあれです。QRコードについて調べてみると、その凄さに驚くばかりです。

QRコードは、1994年に愛知県に本社のある世界最大手自動車部品メーカー「株式会社デンソー」が開発したもので、従来のバーコードが横方向のみの情報だったのに対し、縦横の2次元の情報をもたせることで、格納できる情報量を飛躍的に拡大させた画期的なコードシステムなのです。

このコードの最大の特徴は、読み取り装置をどの方向から当てても正確かつ高速に読み取れることです。現在では更に小型化、セキュリティの強化、デザイン性の加味といった方向に進化しています。また、読み取り装置も進化し、コードが歪んでいても読み取る歪補正機能や全面積の30%を失っても復元できる誤り訂正機能をもつようになりました。QRコード関連技術の進化



新聞に載っているQRコードを読み取る



QRコードの基本形



デジタル理科室のURL

はまだまだ、とどまるところを知りません。

今や世界中で利用されている電子マネー。その中でもQRコード決済はスマートフォンカメラの充実により、急激に普及してきています。QRコード決済普及率は、日本ではまだ約6%ですが、中国では驚異の98%※。中国のインフラ革命の主役になっています。その用途は生産や物流管理にとどまらず、航空券やイベントの電子チケット、最近では、駅のホームドア開閉システム等へ広がっています。

今度、QRコードを見かけたら思い出してください。「QRコードは、日本製」日本生まれの世界標準だということ。

ちなみに「QRコード」という名称は、いろいろ案が出された中で、一番簡潔に特徴を示している Quick Response の頭文字を取ったものだそうです。

※2018年日経BPムックより

## 教育相談

連載

## ものさしを変える

教育相談部 客員研究主事 舘野 智子

新しい年を迎えましたが、新型コロナの収束が見通せません。以前のように、自分のしたいことが自由にできる世の中に戻ってほしい、と心から願いました。今年最初の相談は、学校に行きづらい高校生。「些細な事で親と言い合いになる。話が通じなくて、どうしたらいいのかわからない・・・」とため息交じりに語りました。じきに、県内は災害級の大雪に見舞われました。ただでさえ、行動が制約されて苦しいのに、雪に覆われた街のありさまに途方に暮れてしまいました。

「どうしたらいいのかわからない」という言葉を聞いて、「誰もが同じ」と思いました。日頃の相談でも、子どもたちのみならず、親や先生方もよく口にします。解決策がいくつか頭にあって、こころや体が言うことを聞いてくれないことだってある。人というのは、生まれてから死ぬまで、常に何かの問いを突き付けられ、何かの選択を迫られています。今までできていたこと

ができなくなると、この状況にどう向き合っていくのか、自分が試されているという感覚にもなるでしょう。

仕事一途だった人が、災害に遭ったり大病を患ったりすることで、仕事より自分自身を大切に生きる方に変わってしまうことがあります。仕事でどれだけ成果を挙げたかではなく、自分の思いや考えをどれだけ大切にできたかという「ものさし」で人生の意味を測ろうとしているようです。それまでとは違う世界に放り出されることによって、ものさしを変えてしまったようにも見えます。

コロナによって、「子どもは学校に通うのが普通」という価値観に広がりがありました。例えば、「どうして学校へ通わなければならないのか？」という問いについて、先生と子どもたちが共に考え、想像を十分に膨らませ、問い続け語り合う。それぞれが手にしたもののさしを示しながら、それぞれに大切なことを考えていけたらいいなと思います。

